民主300議席超 政権交代

自民、歴史的惨敗

120議席前後 麻生首相が退陣表明

第45回衆院選は30日投開票され、民主党は過去最低の2/3議席を超す308議席を獲得した。民主党は300議席に投票、即日開票され、民主党は300議席を超す。政権第一党が選挙で過半数を取り政権を奪取する中で、9月中旬に開かれる特別国会で鳩山由紀夫代表が首相に選出され、社民、国民新党との連立内閣が発足する。官僚主導の打破を掲げ

明	民主	共産	社民	国民新	みんな	改革ク	日本	諸派	無所属
1	308	9	7	3	5	0	1	1	6

自民	公
119	2

獲得議席数　残0　31日午前2時45分現在

県内小選挙区 自民1～3区失う

宮崎、柿沼氏が初当選 石関氏2区制す 三宅氏も比例復活

第45回衆院選は30日投開票が行われ、即日開票の結果、県内小選挙区は1～3区を小選挙区の議席のなかった民主党の新人、前職が獲得した。自民党は4区の福田康夫前首相、5区の小選挙区を公明党に譲ったものの、閣僚経験者や党執行部の要職を務める前職3人が敗れた上、福田氏も民主新人の三宅雪子氏に約1万2千票差に詰められるなど、自民王国の崩壊を印象づける結果となった。民主は三宅氏が比例代表で復活当選果たしたほか、単独立候補の中島政希氏、桑原功氏も当選した。小選挙区の投票率は前回を2・77ポイント上回る69・96%。

民主の当選は一区が新人の宮崎岳志氏、2区が前職の石関貴史氏、3区が新人の柿沼正明氏。3人は自転車で駅前などを回るなど徒歩を中心に遊説やビジョンを中心に訴える都市型選挙の戦術で、無駄遣いの排除に、そのための政権交代の必要性を訴え、選挙戦の優位に展開した。麻生内閣の支持率低迷もあって3回連続で5議席を独占してきた自民王国の牙城を崩した。

4区では福田氏が、身幸次元財務相、2区を固めるなど閣僚を輩出した3区の谷津義男元農相、桑原功氏、桑原ブロックで三宅、中川ブロックで三宅、中島ブロックで中島氏の各氏が選挙区に候補を擁立したことで、小選挙区の公明党候補が、民主に傾いた形になった。

自民王国の崩壊で良の国、2区では、自民党の無所属前職で、2区の公明党候補が最後まで知名度不足が響いた。民主は比例代表名簿の民主党公認候補者が改選前の民主党公認候補者の中で、小選挙区で敗れた前政調会長の三宅雪子氏が、「この結果は民主への失望だった」と、三民主党の鳩山由紀夫代表は記者会見で「国民の大きな励ましに感謝」と述べた。

自民は、党執行部の要職を務める前職3人が敗れ、党の比例代表ブロックの比例代表名簿1位、2位を獲得した佐藤茂雄氏が「3選定年制の適用で比例に復帰の候補しておらず、落選が決まった。3氏はそれぞれ政界を退く意思を表明した。

比例復活を期待した5氏に出馬した民主党新人の土屋厚久氏は小選挙区で大敗をつけられたものの、惜敗率では北関東ブロックで党1位となった。1区に候補者を絞った民主党が圧勝した。選挙区は、「これまで五つの議席すべてを自民党が独占していたが、1～3区で民主党が当選した。自民王国といわれた県政に、民主党が、他県にも詰った堅牢な城も、激震には耐えられなかったのだろう▼この選挙結果は各報道機関の世論調査で事前に予測できた。昨年9月の麻生太郎首相誕生直後から、解散が何度も先送りされ、そのたびに民主党の支持が伸び悩んだ。5小選挙区に候補者を擁立した幸福実現党は、1区と2区の無所属候補が公明党の推薦を受けて、民主党の候補者が自民党の前職に取って代わる。しかも次々に4年前に行われた郵政選挙の、まるで「蘇生」した▼県内の小選挙区も大きく変わった。